

# 国際交流 トピックス

## 世界の中の自分の 役割を発見しよう

十月六日に行われた「国際共生・協働のための青少年フォーラム」。世界の中の一員として貢献することの意義や現状についての講演、体験発表を市民約三百人が聴講しました。

基調講演を行った美術工芸短大の石川好学長は、米国同時多発テロなどを例にあげ、世界のどこかで災害や事件が起きたときに、自分ならどんなことができるかと「イメージ」してみることが必要と、世界と自分の日常生活を結びつけることをアドバイス。また、パネルディスカッションで佐竹市長は、これからの国際交流で市が果たす役割として、市民レベルの交流の場と機会づくりと、「ロシア、中国、韓国との環日本海貿易など、ビジネス面へのサポートの必要性」をあげ、より開かれた国際交流施策を展開していくことを話しました。

### 聴講者は



鈴木一生さん  
(豊岩中3年)

自分も参加している地雷撲滅運動の代表が体験発表をしてみなさんにPRができてよかったです。

世界と交流していくには、まず自分の意見をしっかり持って行動することが大事だと実感しました。講演の内容は、機会があれば学校のみならずにも話したいと思います。



ウラジオストク市の訪問体験を発表する武藤博子さん



## パッサウ独日協会フェリックス会長来秋 昨今のドイツを語る



フェリックス会長(パッサウ大学教授)

姉妹都市のドイツ・パッサウ市からザシャ・フェリックス独日協会会長を招いて「昨今のドイツの話題」をテーマに講演会が行われました。ドイツの労働や人口などの社会問題を日本語で語り、少子・高齢化が進むいま、年金や税制度の改善・改革が重要であることを説明。各国共通の課題に聴講者も真剣に耳を傾けていました。

## 素敵な交流： 笑顔は世界共通語！

九月十九日から九日間、国際協力事業団(JICA)が招いた二十二人のアフリカ女性教員が、教育・文化施設の視察などのため来秋しました。フランセス・イシンペイさん(ルワンダ)は、中村和博さん(飯島)にホームステイ。町内の婦人部のみなさんと学校生活や子育ての情報交換をしました。

地域で生まれた交流の輪、大切にしていきたいですね。



イシンペイさん(前列)と下飯島町内婦人部のみなさん